9月27日　福祉講演会

「生活支援ボランティア活動で助け合うまちづくり」

講師：若葉台高齢福祉連合会　顧問　村上博三氏

演題：地域住民主体で始める小地域活動

**福祉活動を始めたわけ**

高齢者医療ベッド数の削減の時代・親類縁者・幼馴染と言った人間関係がない地域

だから、在宅自立支援が必要と考えた。

ほとんどの家庭が老老介護となる。新聞によると老老介護で、介護している人は相手に対して憎しみを感じる人が３５％がと言う。相手が認知症だったら７０％が憎しみを感じると言う。

**実際に活動する人の裁量で実施**

福祉活動は、誰が何をするかは、手上げ方式だ。現実にすいすいと手を挙げる人が現れる。

細かいことは実施する人の自由裁量、お金はいくらいるのかを評議員会に言ってくれたらいい。やり方など自分で決めて実施すればいい。

運営会議を毎月行う。ここでは自分たちの事業チームはこんなことをやってこんな成果があったと言う発表会となっている。あてがわれたことを実施しているのでなく、主体的に実施したことなので、はりきって発表している。

任意参加の原則で、「自分ができる時にできることだけをやればいい」方式だ。月1回2時間活動する人が100人いればかなりなことができる。

**家事支援は有料で**

家事支援は有料で実施する。依頼者はお金がないからやってくれと言っているわけではない。無償だとやってやる人とやってもらう人の間に上下関係ができる。ささえあいに上下関係はおかしい。また只ほど高いものはない。ビールがいいだろうか、焼酎だろうか等いろいろ考えないといけない。只だと2回目は頼めない。ある依頼者は1時間半の草取りに5000円を払うと言ってきた。どうしても支払いたいと言うので、30分500円で1500円は仕事をした人に、残りは会に寄付としていただいた。

エアコンが動かなくて寒くて困っていると言う連絡。電気に詳しい人を探していると、「早くしてくれ」

と再度電話がかかる。

「ストーブでも付けて待っていて。」

と言うと

「息子がストーブは危ないからと言って灯油を買っていない。」

との話。とりえず行ってみたら、リモコンの電池切れだったなんてこともあった。

信頼されるまでに時間がかかる。

いざという時に助けてくれると言う人が70人もいると言うことがいい。

雨樋が詰まったと言って、名古屋の業者をよんだら、20000円の請求だったと言う人がいた。私たちは500円で詰まった鳥の巣を取る位できる。

**喜ばれている「ほのぼのアッシーくん」**

日常生活移動支援として「ほのぼのアッシー君」を運行している。利用者平均年齢は78歳、昨年度の利用3700人だった。無料でやっている。ガソリン代の一部は廃品回収で賄っている。小学校がやらない時期を選んで、また雨天で流れたあとに実施して、30万円くらいは収入になる。

最近は陸運局が金をとっても良いと言って来た。

**大盛況の麻雀教室**

健康麻雀教室は市から補助を受けて実施している。認知症予防だと言って、熱心に通ってくる人が多い、週1回で始めたが要望により今では週2回になった。麻雀を全く知らなかった女性たちも、熱心に通っている。丁寧に教える人もいる。

**自分のこととして考えた活動した人たち**

支援スタッフは誰も止めないどころか、3年目の今年、75人だったのが今は80人となっている。

・地域福祉に関わった人たちは何を考えたか。

・他人事でなく、自分自身のこと、それもごく近い将来の

・自分で作った役割＝自分で作った自分の居場所

・感謝される＝人として自然な心地よさを味わう

考えているより、必要だったら実施する。やっていると必ず道は開ける。

「100の議論より、一つの実行」と考えている。

できない理由は100もある。どうすればよいかを考えるのが仕事、汗を出すか、知恵を出すか。どっちも出さないのに横から口を出さないことだ。

私も８１歳になった。老老介護で憎しみを持たれるのはかなわない。私が倒れても、近所の誰かがすっ飛んで来てくれると言う安心感が持てる地域にしたいと思って活動してきた。